令和７年度防災分野のデータ流通促進のための調査検討業務
技術検討ワーキンググループ(第１回)
議事要旨

１．日時
令和７年 12 月 18 日（木） 15：00〜17：00

２．出席者
大隈委員、大野委員、柴崎委員、殿村委員、眞野委員、武藤委員（50 音順）
内閣府（防災担当)、デジタル庁、(国研）防災科学技術研究所

３．議事次第
（1）本事業の経緯・概要
（2）関連事業の実施状況
- 新総合防災情報システム（SOBO-WEB）の取組状況説明
- 防災分野のデータ連携促進に向けた取組

（3）今年度の検討状況について

４．議事要旨
内閣府より、本調査事業の経緯・概要のほか、関連事業である新総合防災情報システム(SOBO-WEB)の取組状況を、デジタル庁より、防災分野のデータ流通促進に向けた取組を説明したのち、内閣府より、本事業の本年度の検討状況（一部）を報告した。各委員からは以下の意見等があった。

【(1)本調査事業の経緯・概要　について】
- 特筆事項なし

【(2)関連事業の実施状況　について】
- 新総合防災情報システム(SOBO-WEB)と他システムとの連携を行う上で、災害対応基本共有情報（EEI）の名称のみならず、各情報項目（細分）のデータの仕様を定義することが重要と思料する。
- 災害対応基本共有情報（EEI）のデータ仕様を定義しデータ提供者側に倣わせる場合、システム改修のコストがかかることが想定される。データ提供者側のコスト削減のために、AI を使った表記ゆれの修正やコンバージョンツールの提供等の仕組みを構築することが望ましい。
- 新総合防災情報システム（SOBO-WEB）が、将来的に SIP スマート防災ネ

ットワークや産業データ連携基盤とのデータ連携を進めることで、災害時の二次被害防止等に役立つと思料する。

- 新総合防災情報システム（SOBO-WEB）は、ユーザーがデータを収集するために能動的にシステムを閲覧することを前提としているが、プッシュ通知等でユーザーにデータが通知される機能の実装も検討することが望ましい。
- データ提供者が新総合防災情報システム（SOBO-WEB）と他の情報流通基盤の双方にデータを二重入力する事態とならないよう、あらかじめ調整することが必要と思料する。
- データの供給元は基礎自治体であることが多いが、自治体の防災部局にとどまらず、様々な部局が保有するデータとの連携が可能となるよう、データ仕様の標準化を推進することが望ましい。

【(3)今年度の検討状況について】

＜他の情報グループとのデータ連携等にむけた規約等の策定検討　について＞

- 新総合防災情報システム（SOBO-WEB）と他の情報共有グループの情報流通基盤とのデータ連携にあたっては、連携するデータの主権者への通知や意思確認が必要である。
- 各データとそのデータ利用条件の紐づけを技術的（システム的）に可能とするような仕組みの検討が必要と思料する。
- データを利用する者による加工を認める場合、加工後の二次データにも約定事項が再帰的に適用されるのかを検討することが必要と思料する。その場合、二次データから一次データが容易に復元可能か否かにより適用の是非を検討することが望ましい。

＜指定公共機関等における新総合防災情報システム（SOBO-WEB）利用促進に資する平時の訓練等に関する調査検討　について＞

- 特筆事項なし

5．その他

ワーキンググループの後に、委員から以下の意見があった。

- 検討を進める上で、新総合防災情報システム（SOBO-WEB）と連携するシステム全体（外部システムも含む）のアーキテクチャ図のようなものを作成した上で、運用中と開発中の範囲を明示することが望ましい。

以上